

時間割コード	GOA10022	開講年度	2026					
授業題目	学術リテラシー					担当教員	小山 茂喜	
英文授業名	Academic Literacy							
単位数	1	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限		対象学生	全
講義室	共通教育47講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	大学DP							
	的確に情報を収集し、理解し、発信する力					⇔	・大学での学びを充実させるための読解力や記述力を身につけ、学術的な探究ができるようになる。 ・協働で学ぶことを通して、他者とのコミュニケーションがとれるようになる。 ・新聞や本などを読むことを通して教養を深め、ICTなどを活用して適切に情報を収集し、整理分析・表現する情報活用能力を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	この授業では、高等学校までの学びをベースに、新聞や書籍等を活用しつつ協働で学ぶことを通して、「思考・判断・表現に関わる基礎的・基本的なトレーニング」を行います。その作業を通して、大学での学びで必要とされる読解力や記述力、他者とのコミュニケーションのとり方、ICTを活用した情報処理力、情報を複数の視点から分析する力などを身につけます。 また、この学びを通して、「教えてもらう学習・覚える学習・教師から評価してもらう学習」から、「自ら課題を発見し、自らの課題解決に向けて主体的・能動的に学び、学ぶ主体である学習者が成果を評価する学習」へと、学びの質の転換を図ります。							
(5)授業のキーワード	思考力 判断力 表現力 コミュニケーション能力 情報処理力							
(6)授業計画	第1回…心をほぐしてコミュニケーション能力を高める 第2回…新聞の記事を紹介する 第3回…新聞を読み比べてみる 第4回…プレゼンテーション資料を作成する 第5回…伝えること 第6回…パラグラフ・ライティングと引用の仕方 第7回…パラグラフ・ライティング基礎編 第8回…パラグラフ・ライティング応用編、授業アンケート							
(7)成績評価の方法	「毎回の課題の提出・コメント・振り返りへの取り組み態度（４割）」と「教員評価課題を含む学習活動の成果（６割）」で総合的に評価します。 ※教員評価の対象となる課題は、第4回と第8回の提出物です。							
(8)成績評価の基準	「毎回の課題の提出・コメント・振り返りへの取り組み態度」（合計40点満点）と「教員による評価」（60点満点）を合計し、90点以上で「卓越している」、80点以上90点未満で「かなり上にある」、70点以上80点未満で「やや上にある」、60点以上70点未満で「合格水準にある」と評価します。							
(9)事前事後学習の内容	・eALPS上に事前事後学習の内容が示されるので、その指示に従って学習を進めてください。 ・事後学習では、各授業後にeALPS上への成果物の提出、相互評価（学習者間でのコメント）、自己評価があります。それぞれの期限内にきちんと提出、グループ内での相互評価を必ず行なってください。 ・新聞スクラップを行うので、新聞を毎日読んでください(複数紙に目を通すことが望ましい)。 ・第8回の課題に向けて、以下の指定課題図書のうち1冊を読んでおいてください。 [指定課題図書] ・ 異 好幸著、『神と仏の人文地質学 地殻変動で解き明かす日本古代史』，ISBN 978-4334108229，<光文社>，2025年，1122円 ・ 鎌田 浩毅著、『日本史を地学から読みなおす』，ISBN 978-4065416860，<講談社>，2025年，1540円 ・ 川島 隆太、岡田 拓也、人見 徹著、『欲しがる脳』，ISBN 978-4594100834，<扶桑社>，2025年，990円 ・ 保阪正康著、『なぜ日本人は間違えたのかー真説・昭和100年と戦後80年ー』，ISBN 978-4106110948，<新潮社>，2025年，990円 ・ 柳瀬 博一著、『アンパンマンと日本人』，ISBN 978-4106110801，<新潮社>，2025年，968円 ※この授業は、30時間以上の時間外学習が必要となります。							
(10)履修上の注意	・ 毎回課題があるので、きちんと課題に取り組む必要があります。 ・ コミュニケーション能力を育成する観点から、毎回、4人程度のグループで活動します。この学習では、たくさんの人と知り合うことも授業の目的なので、グループのメンバーと協働の学習を展開するように心がけて活動に取り組んでください。 ・ 学習者同士による相互評価について 相互評価は、学習者が相互に成果物を評価し合ってより良いものにしていく学びの協働作業です。各授							

(10)履修上の注意	業後に提出されたグループ内の他人の成果物に対して、評価の観点に基づきeALPS上で、プラス思考でチェックしたり助言したりする活動となります。 ・自己評価について 各授業後には自己評価も行います。これは、自分のこれまでの学びの状況と、授業内の学びとの関連を総合的に点検し、次のステップに向けた自己課題を設定するために行うものです。
(11)質問,相談への対応	eALPSの授業サイトのフォーラムやe-mail、授業の前後の時間などに適宜受け付けます。詳細は、初回の授業時に説明します。 e-mail:shigeki@shinshu-u.ac.jp 研究室は、共通教育第1講義棟南2Fにあります。
(12)授業への出席	授業の目標達成のためには全ての回に出席することを前提とします。6回以上の出席が単位認定の前提となります。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、『共通教育履修案内』に掲載されている方法により補充を受けるための申請をおこなってください。 理由を問わず、出席回数が6回未満の場合は、授業の達成目標の到達に至る教育の質を担保することができないため、単位認定はできません。 ただし、学校保健安全法に基づく出席停止の場合は、1回分の出席をしたものとみなします。複数回もしくは長期間にわたる出席停止の場合は別途協議・対応します。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	小山茂喜編著、『新訂版 学術リテラシーハンドブック』, ISBN 9784761927110, 学事出版, 2021年, 1100円 その他、授業において適宜紹介します。参考書の購入は任意です。